

連 載

経済金融用語の基礎知識 <第18回>

日本で2度目のIMF・世界銀行年次総会

安藤 範親

IMF・世界銀行年次総会とは

国際通貨基金（International Monetary Fund：IMF）と世界銀行は、毎年、それぞれの最高意思決定機関である総務会の年次総会を合同開催している。

このIMF・世界銀行年次総会は、通常9月～10月の間に、IMFと世界銀行の所在地である米国のワシントンDCで行われるが、3年に1度は、米国以外で開催され、開催地には経済発展が期待される国が選ばれることが通例となっている。年次総会では、両機関の主要な施策を決めるほか、世界経済の見通しなどが話し合われる。

日本で2度目の開催

今年は67回目になる年次総会が、10月9日～14日にかけて東京で開催される予定である。年次総会には加盟国の政府関係者が多く参加することから、総務会（本会議）以外にも、プログラム・オブ・セミナーズと呼ばれるイベントや、国際通貨金融委員会、合同開発委員会などの会議、そのほか数多くの二国間会談や20ヶ国グループ（G20）、24ヶ国グループ（G24）等の様々な会議が行われる。11日には、先進7ヶ国（G7）財務相・中央銀行総裁会議が開催される予定である。

年次総会には、世界の財務大臣・中央銀行総裁だけでなく、経済協力開発機構（OECD）や世界貿易機関（WTO）など政府間組織・機関のオブザーバー、金融関係者、報道関係者、市民社会団体の代表なども集まる予定で、IMFに加盟する188ヶ国から約13,000人の参加が見込まれ

ている。

また、年次総会における主な議題としては、各とのソブリン・リスクの相互依存性やユーロ圏の安定性強化のほか、天然資源管理や雇用と成長のための政策の選択肢などの問題が討議される予定である。さらに、2010年に新興国経済の急成長を反映し決定された新興国の出資額や理事の割り当て見直しなど、新興国の発言力強化に向けたIMFの組織改革についても議論される予定である。

日本での開催は2度目となるが、前回の1964年には、金1オンスを35米ドルと定め、そのドルに対し各国通貨の交換比率を定めたブレトン・ウッズ協定を支えようと、IMFの増資などが議論された。また、東京オリンピックなどと共に日本の戦後復興と経済成長を世界にアピールする舞台ともなり、同年には「先進国クラブ」とも呼ばれているOECDに加盟、先進国への仲間入りを果たした。

復興の姿を世界へアピール

今回の開催は、候補地だったエジプトが、2010年～11年にかけて発生した「アラブの春」による政情不安で対応できず、震災復興に取り組む日本が選ばれた。

年次総会のイベントとして、10月9日～10日には、仙台市で被災地視察や防災と開発に関する国際会議が予定されている。これを機会に、震災復興と防災の重要性を世界にアピールすることで、日本の復興の姿を世界に知らせる大きな意味のある年次総会となるだろう。